

インフォシス(NYSE: INFY) 2016 年度第 3 四半期の決算を発表

2016 年第 3 四半期の売上高は米ドルベースで 1.4% の連続減少、実質ベースで 0.3% 減

前年同期比の売上高の伸びは米ドルベースで 6.0% 増、実質ベースで 7.3% 増

9 ヶ月間の売上高の伸びは米ドルベースで前年同期比 8.3% 増、実質ベースで 9.4% 増

直近 12 ヶ月の売上高は 100 億ドル超

営業利益は 0.2% 改善して 25.1% にアップ、純利益は 0.6% 改善して 21.5% に連続アップ

1 株当たりの利益は 1.5% 連続成長、前年同期比では 4.4% の伸び

離職率は単独ベースおよび連結ベースでそれぞれ 0.8% および 1.6% 連続低下

2017 会計年度の収益予想を実質ベースで 8.0%～9.0% から 8.4%～8.8% に修正

インド、バンガロール: 2017 年 1 月 13 日

財務ハイライト

国際財務報告基準(IFRS)に基づく 2016 年第 3 四半期の連結決算

- **2016 年第 3 四半期の売上高は 25 億 5100 万ドル**
米ドルベースで前四半期比 1.4% 減、実質ベースで 0.3% 減
前年同期比の伸びは米ドルベースで 6.0% 増、実質ベースで 7.3% 増
- **2016 年第 3 四半期の純利益は 5 億 4700 万ドル**
前四半期比で 5.5% 増
前年同期比で 4.4% 増%

国際財務報告基準(IFRS)に基づく 2016 年第 1 ～ 3 四半期までの累計連結決算

- **売上高は 76 億 3900 万ドル、米ドルベースで 8.3% 増、実質ベースで 9.4% 増**
- **純利益は米ドルベースで 5.1% アップして 15 億 9700 万ドル**

- 現金、現金相当物および投資などから成る流動資産は、前四半期の 2016 年 9 月 30 日時点で 53 億 4900 万ドル、前年度同期 2015 年 12 月 31 日時点で 47 億 6500 万ドルだったのに対し、2016 年第 3 四半期は 52 億 5,500 万ドル。第 3 四半期中に支払った中間配当は税込みで 4 億 5,300 万ドル。

最高経営責任者 ビシャル・シッカは、「当四半期の季節的およびそれ以外のさまざまな逆風を勘案すれば、第 3 四半期の業績はおおむね期待どおりでした。AI をベースとした自動化の受け入れの高まりやソフトウェア主導の新たなビジネスの成長、漸進的および画期的な学習主導の文化の振興に反映されるように、当社は、四半期の業績を超えて、はっきりと戦略の実行に重

点を置いた取り組みを継続します。当社の年次顧客調査の結果によれば、顧客満足度は12年前の調査開始以来最高となり、特に最優秀企業の間でゼロ・ディスタンスの導入が増加し、離職率は下がっています。これらはインフォシス社員の創造力に対する自信の高まりを示す主な指標の一例です」と述べています。

最高業務執行責任者 U. B. プラビン・ラオは次のように話しています。「季節的に弱含みの四半期において、当社の稼働率は健全な状態を維持しました。社員の業務従事と経験を向上させるための継続的な取り組みは離職率の低下につながっています。当四半期、当社は顧客を77件増やし、7500万ドル以上の売上カテゴリーでも2件の顧客を増やしています。すべてのステークホルダーに対して直近12ヶ月ベースで100億ドルの売上マイルストーンを超えたことについて祝意を表したいと思います」

最高財務責任者 M.D. ラングナトは、「継続した業務効率の重視により、会計年度累計の営業利益を前年同期と同じレベルに保つことができました。当四半期中の当社の現金創出は堅調でした」と述べています。

業績見通し*

国際会計基準(IFRS)に基づく2016年度の企業見通し(連結ベース)は以下の通りです。

- 収益予想を実質ベースで8.0%~9.0%から8.4%~8.8%に修正
- 上記の恒常為替見通しは、3月31日のレートに基づく米ドルベースでは8.6%~9.0%、6月30日および9月30日のレートでは7.9%~8.3%、12月31日のレートでは7.2%~7.6%となる

*2016年度恒常為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.73、ユーロ/米ドル 1.10、英ポンド/米ドル 1.51

2016年3月31日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.77、ユーロ/米ドル 1.14、英ポンド/米ドル 1.44

2016年6月30日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.75、ユーロ/米ドル 1.11、英ポンド/米ドル 1.35

2016年9月30日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.76、ユーロ/米ドル 1.12、英ポンド/米ドル 1.30

2016年12月31日の為替レート: オーストラリア・ドル/米ドル 0.72、ユーロ/米ドル 1.05、英ポンド/米ドル 1.23

インドの強制ローテーション義務による監査人の変更

インフォシスリミテッド(当社)の取締役会は2017年1月13日に開催された会議で、監査委員会の勧めに基づき、当社株主の承認を条件に、当社の監査役に公認会計士 Deloitte Haskins & Sells, LLP (会社登録番号 117366 W/W 100018) (Deloitte)を任命することを提案しました。この任命は2017年会計年度に有効となり、同年度の四半期ごとの財務諸表の監査が対象に含まれます。企業はインドの2013年会社法のセクション139下で許可された最長期間の満了をもって現在の監査役を交代させなければならず、この任命も同セクションとそれに従って制定された規則により義務付けられたものです。Deloitteの任期は2017年度に開催予定の当社年次総会の終結から連続5年間となります。

また、上記に併せて取締役会は、米国証券取引委員会(SEC)に届け出る2017年会計年度(2018年3月31日付)年次報告書(Form 20-F)に含める当社の年次財務諸表を監査する独立した公認会計事務所に Deloitte を任命することも承認しました。詳しくは当社のウェブ・サイト(ハイライト IND AS セクション)に掲載された規制当局に対する提出書類をご覧ください。

経営陣異動

当社は、最高業務執行責任者(COO)プラビン・ラオ直属の次席 COO にラヴィクマール S. を即日付けで任命しました。ラヴィクマール S. は、グローバル・デリバリー組織を率いる現在の責務に加え、インドを拠点に特定の戦略的ビジネス実現機能を監督することになります。

事業に関するハイライト

当社は、引き続き、自動化とイノベーションによる顧客への新たな価値の提供、当社の優れた業務の更なる改善、学習の文化に対する投資に取り組めます。

RENEW

第 3 四半期、当社はデジタル、クラウド、データサイエンス、メインフレーム近代化、サイバーセキュリティ、API マイクロサービス、モノのインターネットなど多様な領域で新たなサービスを紹介することで顧客によるコア・ビジネスの刷新をサポートするとともに、当社のコア・サービスを刷新するための戦略で前進し続けました。また、すべてのプロジェクトにおいて推し進められている草の根イノベーションを主導する上でゼロ・ディスタンスは引き続き重要な戦略的差別化要因となりました。

インフォシスは**ゼロ・ディスタンス・フレームワーク**を利用して、法律、リスク管理、企業、政府、警察、会計および教育機関市場の専門家向けに設計されたコンテンツ対応ワークフロー・ソリューションの世界的な大手プロバイダーである LexisNexis のグローバル・ビジネス・システム向けに保守および本番サポート・サービスを提供するカスタム・アプリケーションを構築しました。

LexisNexis の**テクノロジー部門バイスプレジデント James W Wanke 氏**は、「運用コストの削減と並行して顧客体験を向上させる革新的なアイデアを提案するという点でインフォシスの能力は私の期待以上のものです。インフォシスは、サード・パーティー・システムに替えてカスタム・アプリケーションを導入することでユーザー体験を改善し、運用コストを削減することを提案しました。インフォシスのおかげで期限より 1 ヶ月前に導入が完了したため、当社は新しいカスタム・アプリケーションから財政的な恩恵を最大限に得ることができました。これは単に現状を管理するだけに留まらず、それ以上の成果を挙げるインフォシスの非常に優れた能力の一例です。今後もこのようなイノベーションでインフォシスと提携することを楽しみにしています」と述べています。

Arizona Public Service Company の**CIS 近代化プログラム担当ディレクター Jasvinder Arora 氏**は、「Arizona Public Service (APS) は主要な経営革新を目前にしていました。この経営革新では、お客様に複雑なプロセスによる負担をかけることなく当社の顧客情報システム (CIS) 環境を近代化することが必要でした。インフォシスのおかげで、大規模で複雑な CIS アプリケーションのシームレスな移行と定常状態が確保される一方で、既存のシステムと適切な COTS (商用オフ・ザ・シェルフ) 製品の入れ替えの加速が可能となりました。詳しい業界知識を持ったチームは、**ゼロ・ディスタンス・イニシアチブ**を利用して、サービスの寸断を最小限に抑えつつ製品のアップグレードを保証する並行持続可能プログラムを実行するアイデアを考案しました。さらに、インフォシスはそれまで手動でテストしていた大量のテスト・ケースを当社独自のシナリオに合わせて自動化するという素晴らしいアイデアも生み出しました。インフォシスが提供したソリューションにより、お客様のニーズに応える柔軟で俊敏なシステムにより最終顧客にとってのコスト節減を叶えつつ、お客様に対して製品やサービスをよりタイムリーに提供できるようになりました」と話しています。

世界で 3 番目に大きい小売事業であり、売上げトップを誇る伝統的なスーパーマーケット・チェーンである Kroger Co. は、一部の企業システムおよび小売システムとミドルウェア・サービス向けのサポート提供にインフォシスを選択しました。同社の**コーポレート・テクノロジー部門バイスプレジデントの Annette Franke 氏**は「インフォシスが提供する経験と能力、拡張性に大いに期待しています。インフォシスは、顧客、品質およびイノベーションを重視した当社の取り組みにピッタリ合致すると考えます」と述べています。

ハワイを拠点とする大手自動車ディーラー代理店の Servco は、同社の ERP 変革プログラムを実行するパートナーとしてインフォシスを選択しました。同社の**シニア・バイスプレジデント Thor Toma 氏**は次のように話しています。「当社の主要業務機能全体でクラウドとオンプレミスのハイブリッド Oracle ソリューションの導入を必要とする極めて重要な Oracle 変革プログラムのパートナーにインフォシスを選んだことに満足しています。この導入でレガシー・システムと決別し、当社の重要機能にとってプラスとなる強力で近代的な統合システムを構築することにより、ビジネス・リスクを排除することが可能となります。Oracle ERP、クラウド・テクノロジーおよび自動車業界に関するインフォシスの知識がこの重要なプログラムに当社を選択した決め手です。」

House of Fraser の最高情報責任者 (CIO) Julian Burnett 氏は、「当社は顧客中心の小売デジタル時代への対応を加速させています。当社は、真のマルチチャネル計画において、オンライン、店舗およびモバイルで新しいバックエンド・オーダー管理とサービス統合機能を融合した次世代の統合 e-コマースと顧客体験プラットフォームの構築を進めています。この変革の実行を通しての戦略的パートナーであるインフォシスと協力しており、この革新的なプラットフォームは Microsoft の Azure クラウド・コンピューティング・インフラ上で提供されます。当社の事業規模では、これは顧客と対面する基幹業務アプリケーションに対するクラウド・テクノロジーの先駆的な利用であると同時に Microsoft のクラウド・テクノロジーの成熟度と能力を明確に示すものと考えます。インフォシスおよび Microsoft と連携してこのプラットフォームを実現した有益な経験は、クラウド・テクノロジーの利用が当社のデジタル変革を促進するという確信を裏付けるものでした」と話しています。

さまざまな業界で引き続きメインフレームの近代化が求められている中、当社は Amazon Web Services と Azure と市場への共同進出に取り組み、メインフレームの作業負荷のクラウドへの移行に向けて顧客と提携しています。

DBS Bank のグループ CIO である David Gledhill 氏は次のように話しています。「当行はインフォシスと共同で Finacle およびクラウド版 Amazon Web Services を利用した革新的テクノロジー・ソリューションの創出に取り組んでいます。このほど大規模なコンポーネント・バッチ処理を AWS クラウドにオフロードして初期テストを実施し、従来のデータベース技術よりも 100 倍早い処理速度を達成しました。これは我々のコア・バンキング・システムの運用方法を大変革する可能性があります。さらに、Amazon Web Services とインフォシスの支援の下、当行はレガシー環境の近代化とデジタル変革の加速に向けた取り組みにも着手しました。」

NEW

ソフトウェアとサービスが一体となり顧客にとって新たな価値を生み出す推進力は第 3 四半期も続いており、顧客による Mana の導入は前四半期に比べ倍増しました。Skava はリテール e-コマース・サイトでのブラック・フライデー売上が好調となり、販売高は 30% 以上アップしました。EdgeVerve 事業はさまざまな市場で Finacle と Edge 両方の多彩なソリューションで 18 件の契約獲得と 21 件の本稼働を達成し堅調な業績を収めました。さらに、当社のロボット・プロセス自動化プラットフォーム AssistEdge では過去最高の四半期となりました。同様に、Panaya も当四半期は予約と売上高で最高の実績を挙げています。

特殊化学品の世界的大手 Evonik は戦略パートナーとしてインフォシスと複数年契約を結びました。Evonik Industries AG のシニア・バイスプレジデント兼アプリケーション管理責任者 Thomas Meinel 氏は、「当社の現在の IT ニーズに応える対応能力と、将来のテクノロジー近代化プログラムにおけるサポート能力でインフォシスを選びました。当社の『Procurement 2020 ビジョン』の一環である SAP Ariba のエンド・ツー・エンドの導入を通してインフォシスは当社の調達ランドスケープの変革でサポートを提供してくれています。また、同社のゼロ・ディスタンス・イニシアチブによって生み出されたアイデアを通して、当社はインフォシスの人工知能プラットフォーム Mana とその認知自動化機能をプラットフォーム運用に利用すると共に、重複するシステム監視アラートを分析して 15% 削減することに成功しました。今後もインフォシスからのこのようなアイデアに期待しています。それによって今後の両社間のパートナーシップが形作られ、推進されていくでしょう」と話しています。

世界的な写真会社である Lifetouch は、システムやインフラの障害に対するインシデント・チケットの自動化と監視に向けてインフォシスと提携しました。同社の Nagios ツール導入の一環として、アラート監視用にインフォシスのロボット・プロセス自動化が組み込まれました。ロボットは、アラートの種類に基づいて、サービス・デスク・チケット作成、問題の分類、組み込みビジネス・ロジックを利用した問題管理チケットの作成などの特定のアクションを実行するようにプログラムされています。Lifetouch (LNSS - National Schools Studios) のバイスプレジデント Jay Drayton 氏は「インフォシスとの提携により、監視やチケット作成などの繰り返しの非常に多い手動タスクを自動化できただけでなく、成果の質を向上させることができました。ロボットを使うことで正確な監視と体系的なアラートによる 24 時間 365 日の対応が可能となりました」と話します。

Finacle は、銀行向けの新しいビジネス・モデルを可能にし、引き続きデジタル変革に「最適なプラットフォーム」としての地位を強化しています。

ICICI Bank マネージング・ディレクター兼最高経営責任者 Chanda Kochhar 氏は次のように話しています。「当行には最新のテクノロジーを利用して銀行業務の新パラダイムを取り入れる豊かな伝統があります。インドにおいてソフトウェア・ロボット、モビリティおよび近距離無線通信などの新テクノロジーのパイオニアであると同様に、当行がブロックチェーン・アプリケーションを設置した世界でも数少ない銀行の1つであり、インドでは初であることを嬉しく思います。また、Emirates NBDとインフォシスをパートナーとしたブロックチェーン・ネットワークの共同試行は画期的であり、国境を越えたオープン・アカウント・トレードの金融および送金取引の実行にも成功しました。ブロックチェーンという新たなテクノロジーが複雑な2国間および多国間の銀行取引をシームレスで迅速かつ今まで以上に安全にし、今後の銀行業において非常に重要な役割を果たすことになると予測します。今後はブロックチェーン・エコシステムの拡大に取り組むと共に、共通の作業標準を確立してこのイニシアチブの商用普及にも貢献するつもりです。」

当四半期、米国での Finacle 進出の強化において重要な転機となったのが Goldman Sachs による Marcus の本稼働です。「Finacle コア・バンキング・ソリューションの導入成功により、競争の激しい今日のデジタル時代に求められる卓越した顧客体験を提供すると同時に、顧客ニーズに応える俊敏性と市場の要求に適応するスケーラビリティの両方を手に入れることができました」と Marcus by Goldman Sachs (デジタル金融テクノロジー)の最高技術責任者 (CTO) Boe Hartman 氏は話します。

化粧品会社資生堂は Panaya テスト・センターを利用して大規模な IT 変革プロジェクトを実施し、グローバルなテスト工数の30%削減の成功により IT 変革プロジェクトへの取り組みを支えました。資生堂の欧州・中東・アフリカ地域担当テクニカル・ディレクター Sébastien Hebert 氏は、「業務に不可欠な当社のアプリケーションのスムーズな本稼働を確実なものとするために、欧州11か国に散らばる80人以上のビジネス・ユーザーを動員してユーザー受入テストを実施する必要がありましたが Panayaのおかげでテスト工数を30%削減することができ、またテストの品質も向上しました」と話します。Panaya テスト・センターはテストを加速させると共に、資生堂にエンド・ツー・エンドの視点から業務プロセス・テストのより効率的な管理方法を提供しました。Hebert 氏は更に次のようにコメントしています。「プロジェクトをリアルタイムで容易に追跡して効率を高めると共にボトルネックを回避することができました。今後予定しているロールアウトでも引き続き Panaya と提携する予定で、さらに大きな価値を期待しています。」

Panaya は、修正時間ゼロ、ダウンタイム・ゼロおよびリスク・ゼロの高品質 ERP 変更を提供することで大企業に大きな節約をもたらす Panaya の CloudQuality™ Suite のライセンスの再販で Elton Technologies と提携しました。Elton Technologies の CEO Prem Chander 氏は「湾岸協力諸国の顧客の多くは今後数年間に SAP S/4HANA への移行を計画しているため、Panaya と提携するのは絶好のチャンスと見ています。こうした顧客企業は複雑な ERP 移行に直面しています。リスク・ゼロで迅速なテストを提供する Panaya の CloudQuality™ Suite のような広く利用されているソリューションは間違いなく当社の顧客に大幅な節約をもたらすことでしょう」と述べています。

デザイン・シンキングでは、主要な戦略領域で顧客との協働を継続しました。中国上海の復旦大学 経営学部学長 Xiongwen Lu 氏は、「経営学部の変革の開始にあたり、我々は、教育プログラムの中で、学生と教授陣のための新しい学習体験を再考、創出したいと考えていました。学生と教授の間の関わりを深められるプラットフォームを構築し、近代的でスマートなキャンパスを創り出すことを目指していました。卒業生については今まで以上に深い関わりをもち、卒業後もずっと個人の人生目標やキャリア目標の追求、達成を支援するために継続的生涯学習の概念を取り入れたいと考えていました。インフォシスは復旦大学でのこうしたビジネス教育の未来を想像する上で重要なパートナーでした。インフォシスと共同したデザイン・シンキングの取り組みでは、動機、期待、抱負といった学生の視点から MBA 学生の体験全体を考察しました。これにより、学生体験をどのように変革するかについてとても具体的に考えることができるようになり、我々のチームも問題の特定や学生のニーズの理解とその対応の考案に今まで以上に自信を持てるようになりました。テストと素早い反復の力を信じ、アクション指向で『2026 年学生体験』の試行とプロトタイプ作成に弾みをつけられたことを大変嬉しく思います」と述べています。

カルチャー

学習可能性(新たなスキルを習得する容易さとスピード)は引き続き企業成長の基礎です。当社は、世界的に認められた機関でよりグローバルな体験的学習プログラムを提供することにより、リーダーシップ・トレーニング・イニシアチブに投資しています。また、Udacity などの組織との提携を通して積極的なけん引力も経験しました。

当四半期、当社は社内における学習率の向上に投資を行いました。デジタル・チューター社会学習プラットフォームやインフォシス学習プラットフォームで Mana や機械学習などのトピックに関する新しいクラスを展開しました。具体的な事例やインフォシスの成功談などを盛り込んだデザイン・シンキングの最新モジュールと併せて、現在マイソールにおいて全新入社員に向けて「Automation - A Way of Life (生活様式としての自動化)」という没入型トレーニング・カプセルを展開中です。

受賞および評価

- ガートナー・マジック・クアドラントのアプリケーション・テスト・サービス部門で**世界リーダー**に認定されました
- Everest Group の Capital Markets Outsourcing PEAK Matrix™ 2016 で**リーダー**に認定されました
- Everest Group の Service Provider Landscape with PEAK Matrix™ Assessment 2016 でグローバル・バンキングにおけるモビリティ・サービス部門の**スター・パフォーマー**に認定されました
- Everest Group の Service Provider Landscape with PEAK Matrix™ Assessment 2016 でグローバル・バンキングにおけるビッグ・データ & アナリティクス・サービス部門の**リーダー兼スター・パフォーマー**に認定されました
- Everest Group の Service Provider Landscape with PEAK Matrix™ Assessment 2016 でグローバル保険事業における IT アウトソーシング部門の**リーダー**に認定されました
- HfS Product Lifecycle Management Services Blueprint Report 2016 で **Winner's Circle** に迎え入れられました
- ARC 諮問機関により、(インドを拠点とする)グローバル・サービス・プロバイダーによる世界規模のエンジニアリング・サービスの**リーダー**に認定されました
- Zinnov により、Zinnov Zones のリテール・デジタル・サービス・プロバイダーの**リーダー**に認定されました
- HfS Intelligent Automation Blueprint Report 2016 で**業績優良企業**に認定されました
- Ovum Research 発行の「Ovum Decision Matrix: Selecting a Digital Banking Platform, 2017–18」レポートで Finacle がデジタル・プラットフォームの**マーケット・リーダー**に認定されました
- FinanceAsia's 20th Anniversary Platinum Awards で**インド最優秀企業**の栄誉を獲得しました
- 第 16 回 Institute of Company Secretaries of India (ICSI) で **National Award for Excellence in Corporate Governance** を受賞しました
- ATP との戦略的テクノロジー・パートナーシップ立ち上げの成功を受けて **5 つのマーケティングおよびイノベーションの賞**を受賞しました
- インフォシス BPO が Best Employer Institute から「**Best Employer Brand**」賞を授与されました

事業外活動

インフォシス基金は、インドにおいて、リハビリ、芸術・文化、教育および農村開発などの幅広い分野でインパクトの強い複数のプログラムに投資を行っています。当四半期の主要なイニシアチブには、インフォシス基金アヌブ・フェスティバルのキュレーション、Akshaya Patra Foundation と共同でのハイデラバードのキッチン支援、インドの芸術、文化、歴史に関する対話型オンライン・ウェブ・モジュール開発に向けた NGO Sahapedia への寄付、Shivganga Samagra Gramvikas Parishad によるマディヤプラデシュ州の持続可能な村の開発、恵まれない背景を持つ患者、子供、青少年のための投資などがあります。

第 3 四半期、米国インフォシス基金は**コンピューター・サイエンス教育週間**を祝って 9 つの州で少数派学生によるコンピューター・サイエンス(CS)やコーディングの探求を支援する複数の助成金を発表しました。また、世界で最も活発な CS 教育支援団体の 1 つである **Code.org** との提携も更新しています。さらに、ACM および CSTA と共同で CS 教師 10 人に**優秀賞**を授与して称えると共に、社会的に大きな影響を持つプロジェクトに取り組む製作者数十人を表彰する **Infy Maker Awards** の 2016/2017 新サイクルを始動しました。同基金の活動により、2016 年 9 月 30 日時点で全 50 州の 2,490 校で 134,529 人の学生がコンピュ

ーター・サイエンスおよび製作者教育を受けることが可能となっており、同基金は CS 教育に大きなインパクトを与えています。これはコンピューター・サイエンス教育者研修、教室で利用する新しいテクノロジーや教材、製作空間などの重要なリソースを提供し、2,539 人の教師を支援することで実現しています。上記に加え、同基金は、学校や放課後に開催される 179 のコーディング・ワークショップやハッカソン、コーディング・クラブも支援しました。

当社について

インフォシスはテクノロジー・サービスとビジネス・コンサルティングのグローバル・リーダーです。当社は 50 か国以上の国々のお客様によるデジタル変革に向けた戦略の策定および実行を実現します。エンジニアリングからアプリケーション開発、知識管理および業務プロセス管理まで、当社はお客様が解決すべき問題を的確に把握し、効果的に解決するためのお手伝いをします。全世界で 19 万 9 千人以上のイノベーターから成る当社チームは創造力、あらゆる産業やテクノロジーに関する知識や経験で他とは一線を画し、その能力は当社が取り組むすべてのプロジェクトで活用されます。

www.infosys.com を訪れ、インフォシス (NYSE: INFY) がどのようにデジタル時代における企業の成功を支援しているかをお確かめください。

セーフハーバー条項

本プレス・リリースに掲載されている報告書の一部は、1995 年私募証券訴訟改革法の「セーフハーバー」条項の適用を意図した当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2015 年会計年度 (2016 年 3 月 31 日付) 年次報告書 (Form 20-F) を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合があります。また、本プレス・リリースは 2017 年 1 月 13 日付けで、ここに記載された将来の展望は、同リリース日において妥当と思われる想定に基づいています。当社は、法律により義務付けられている場合を除き、随時発表する将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ

投資関連

Sandeep Mahindroo

+91 80 3980 1018

Sandeep_Mahindroo@infosys.com

メディア関連

Sarah Vanita Gideon

+91 80 4156 3998

Sarah_Gideon@infosys.com

Pete Daly

+1 857 600 6839

pete.daly@teamlewis.com

インフォシスリミテッドと子会社

無監査連結中間貸借対照表

(100 万ドル、株式データを除く)

	2016 年 12 月 31 日	2016 年 3 月 31 日
資産		
流動資産		
現金および現金等価	3,844	4,935
短期投資	643	11
売掛金	1,905	1,710
未請求収益	502	457
前払費用とその他流動資産	803	672
金融派生商品	15	17
流動資産合計	7,712	7,802
非流動資産		
有形固定資産	1,680	1,589
のれん	554	568
無形資産	127	149
関連会社に対する投資	15	16
非短期投資	796	273
繰延税金資産	90	81
所得税金資産	785	789
その他費流動資産	111	111
非流動資産合計	4,158	3,576
資産合計	11,870	11,378
負債および資本		
流動負債		
買掛金	49	58
金融派生商品	1	1
未払法人所得税	571	515
前受金	4	4
前受収益	268	201
従業員給付債務	210	202
引当金	61	77
その他流動負債	1,004	940
流動負債合計	2,168	1,998
非流動負債		
繰延法人所得税負債	32	39
その他非流動負債	26	17
負債合計	2,226	2,054
資本		
株式資本 額面価格 5 ルピー (0.16 ドル)		
授權株式 2,400,000,000 株 (2,400,000,000 株)		
発行済み株式 2,285,651,730 株 (2,285,621,088 株)		
自己株式 11,292,934 株 (11,323,576 株)		
2016 年 12 月 31 日現在 (2015 年度)	199	199
資本剰余金	580	570
利益剰余金	11,647	11,083
キャッシュ・フロー・ヘッジ準備金	4	-
その他剰余金	-	-
その他の資本構成要素	(2,786)	(2,528)

	2016年12月31日	2016年3月31日
親会社の所有者に帰属する持分合計	9,644	9,324
非支配持分	-	-
資本合計	9,644	9,324
負債および資本の合計	11,870	11,378

インフォシスリミテッドと子会社
無監査連結中間包括損益計算書

(100万ドル、株式データおよび1株当たり純資産データを除く)

	2016年度 第3四半期	2015年度 第3四半期	2016年度 第1～3四半期 累計	2015年度 第1～3四半期 累計
売上収益	2,551	2,407	7,639	7,055
売上原価	1,601	1,512	4,832	4,435
売上総利益	950	895	2,807	2,620
営業費用:				
販売費	131	130	402	388
管理費	179	166	519	482
営業費用合計	310	296	921	870
営業利益	640	599	1,886	1,750
営業外収益	121	121	347	362
関連会社の利益(損失)の分配	-	-	(1)	-
税引前利益	761	720	2,232	2,112
法人所得税費用	214	196	635	593
純利益	547	524	1,597	1,519
その他の包括利益				
損益に組み替えられない項目:				
確定給付純負債(または資産)の再測定	(1)	1	(10)	(1)
IFRS 9の適用による上場債券の含み益戻入に対する累積影響	-	-	(5)	-
その他の包括利益による資本性金融商品	-	-	-	-
損益に組み替えられる項目:				
投資の公正な評価	-	1	-	3
キャッシュ・フロー・ヘッジに指定された金融派生商品の評価替え	4	-	4	-
海外事業の為替換算差額	(189)	(69)	(243)	(448)
その他の包括利益合計(税引後)	(186)	(67)	(254)	(446)
包括利益合計	361	457	1,343	1,073

	2016 年度 第 3 四半期	2015 年度 第 3 四半期	2016 年度 第 1 ~ 3 四半期 累計	2015 年度 第 1 ~ 3 四半期 累計
当期利益の帰属:				
親会社の所有者	547	524	1,597	1,519
非支配持分	-	-	-	-
	547	524	1,597	1,519
包括利益合計の帰属:				
親会社の所有者	361	457	1,343	1,073
非支配持分	-	-	-	-
	361	457	1,343	1,073
1 株当たり当期利益				
基本的 1 株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.70	0.66
希薄化後 1 株当たり利益(ドル)	0.24	0.23	0.70	0.66
1 株当たり収益算定に使用される加重平均株式				
基本的	2,285,651,730	2,285,619,380	2,285,638,678	2,285,614,573
希薄化後	2,286,229,042	2,285,732,052	2,286,076,462	2,285,715,960

注:

- 2016 年度第 3 四半期および年度累計の無監査の連結貸借対照表および損益計算書は、2017年1月13日の取締役会にて記録されました。
- 当社の業績に関する概況報告書については www.infosys.com からダウンロードしてください。